

WEEKLY SIGNAL

平成27年11月20日(金) 1300号

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	11/23(月)	11/24(火)	11/25(水)	11/26(木)	11/27(金)
無担保O/N		0.030% ~ 0.125%			
銀行券		ト ン	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政他		△ 400	△ 5,000	+ 2,000	△ 14,000
資金需給		△ 2,200	不 6,000	ト ン	不 16,000
主な要因		国庫短期証券発行・償還(3M)			国債発行(20年) 交付税特会借入・償還
オペ期日		共通担保(全店) △ 2,700 CP等買入 △ 400			
オペスタート	休日	共通担保(全店) + 2,800 ETF買入 + 100	短国買入 + 2,500		
(日本)			日銀金融政策決定会合 議事要旨(10月30日分) 白井日銀審議委員講演 (松江市) 月例経済報告(11月、内閣府) 日銀営業毎旬報告 (11月20日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		CPI(全国10月・ 東京都区部11月) 完全失業率(10月) 有効求人倍率(10月)
(海外)	米 中古住宅販売件数(10月)	米 オランド仏大統領が訪米 オバマ大統領と会談 米 7-9月GDP(改定値) 米 S&P/ケース・シラー住宅価格 指数(9月) 米 消費者信頼感指数(11月) 独 Ifo景況感指数(11月)	米 MBA住宅ローン申請指数 米 個人支出・所得(10月) 米 耐久財受注(10月) 米 新規失業保険申請件数 米 FHFA住宅価格指数(9月) 米 新築住宅販売件数(10月) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(11月、確定値)	米 祝日(感謝祭) 欧 ユーロ圏マネーサプライ(10月)	米 ブラックフライデー 米 株式市場と債券市場は 短縮取引 欧 ユーロ圏景況感指数(11月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.070 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.155
SPOT 3M	0.119 ~ 0.160
SPOT 6M	0.120 ~ 0.170

<インターバンク>

日銀当座預金残高は発行要因により前週末対比2兆円減少の246兆円台から始まり、国債買入・国庫短期証券買入オペ等により週央に249兆円台まで増加したが、19日5年債発行と20日短国3M発行を受けて減少に転じ、245兆円台で越週した。無担保コールON物は週を通して0.077~0.078%が出合いの中心となり、試取により0.12%台の取引が観測される日もあった。同金利の加重平均は18日を除き0.077~0.078%の狭いレンジで推移し、18日は市場レベルBCP・3市場合同訓練の一環として行われた取引が増えた結果、0.087%をつけた。ターム物は1~2W物0.11%台の出合い、18・19日に開催された日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が賛成8反対1の賛成多数で決定された。日銀は公表文において、予想物価上昇率は「やや長い目でみれば、全体として上昇している」との判断を据え置いたものの、「このところ弱めの指標もみられている」との表現を追加した。来週の材料としては、国内は白井日銀審議委員講演(25日)や10月のCPI(27日)、海外では米中古住宅販売件数(23日)や米新築住宅販売件数(25日)等が挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.050 ~ 0.070
TDB 3M	▲0.100 ~ ▲0.030
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約8,900億円で、期落ち額約6,100億円(金融機関・ABC除外)を上回った。機械や鉄鋼、カード会社でも大型の案件が見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.070%台前半~0.080%台後半で推移した。現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約11,000億円程度となっている。入札市場は閑散な状態が続いているが、今週に引き続き年末を控えた調達に期待される。

<TDB>

18日に国庫短期証券3M第572回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0357%(前回債△0.0186%)、平均落札レートは△0.0391%(前回債△0.0301%)と前回債から利回りは大きく低下した。セカンダリーは3Mで△0.09%近辺の出合い。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.08%近辺の地合いだった。来週26日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

今週の足許GCは、週初0.03%~0.04%近辺の水準から始まった。短国1Y発行日となる20日受渡では、国債買入オペが1兆2000億円オファーされたこともあり、S/Nは0.05%近辺の出合とレートの上昇は限定的であった。一方、T/Nでは0.08%を超える出合を付け、短国3M発行日となる24日受渡も0.07%~0.075%近辺で推移した。週末は短国買入オペがオファーされたが、オファー額が2500億円と先週末対比で少額なこともあり0.07%~0.08%の出合とレート水準を下げることなく越週した。SCは5年125回債が17日の入札に向けてO/Nビッドが目立ち、一部ネガティブレートでの出合いも見られたが、リオープン後のビッドは限定的であった。また、週央以降2年債のビッドが目立ち、2年357回債・358回債に引合が多く見られ、ネガティブレートでの出合となった。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。